

社 会， 地 理 歴 史， 公 民

1 これからの社会科・地理歴史科・公民科教育について

- 社会的事象に関心をもって多面的・多角的に考察し，公正に判断する能力と態度を養い，社会的な見方や考え方を成長させることを一層重視する。
- 習得すべき知識，概念の明確化を図るとともに，コンピュータなども活用しながら，地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること，社会的事象の意味，意義を解釈すること，事象の特色や事象間の関連を説明すること，自分の考えを論述することを一層重視する。
- 我が国の国土や歴史に対する愛情をはぐくみ，日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きるとともに，持続可能な社会の実現を目指すなど，公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することを重視する。

2 各学校において取組が求められること

小学校

- 新学習指導要領に対応した指導と評価の計画の作成
 - ・「節水や節電」のための地域の人々の取組
 - ・安全のための「地域の人々の協力活動」
 - ・文化財や年中行事を「受け継いできた地域の人々の取組」
 - ・「法やきまり」
 - ・「情報ネットワーク」の取組
 - ・「自然災害の防止」のための国や県などの対策や事業
 - ・政治の働きにおける「社会保障」の取組 など
- 評価の観点と趣旨の理解
- 地球儀（児童用），日本地図や世界地図等，教材・教具の準備
- 言語活動や問題解決的な学習の充実の具体策

中学校

- 新学習指導要領に対応し3年間を見通した指導計画の立案
 - ・平成23年度の第1学年及び第2学年の各分野の授業時数
 - ・平成23年度の第1学年の社会のうち地理的分野の指導内容
- 動態地誌的な学習による「日本の諸地域」の教材開発（地理的分野）
- 学習内容の焦点化を踏まえ導入・まとめを重視した教材開発（歴史的分野）
- 「現代社会の内容をとらえる見方や考え方」を生かした教材開発（公民的分野）
- 持続可能な社会を形成するという観点から課題を探究させるために必要な指導計画の立案と教材開発（公民的分野）

高等学校

- 新学習指導要領に対応した各科目の年間指導計画の立案
- 新学習指導要領の学習内容による指導案の作成
- 言語活動の充実を目指した単元構成，指導案に関する先行実施例や参考資料の収集・整理
- 「(1) 私たちの生きる社会」に関する教材の開発（現代社会）
- 課題追究学習に関する教材の開発（倫理）
- 法や金融に関する教材の開発（政治・経済）

3 社会科，地理歴史科，公民科における言語活動の充実

- ・ 観察・調査や資料活用を通して必要な情報を入手し的確に記録する学習，それらを比較・関連付け・総合しながら再構成する学習，考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習を重視する（小学校）。
- ・ 社会的事象の意味，意義を解釈する学習や事象の特色や事象間の関連を説明するなどの学習を充実させる（中学校）。
- ・ 各種の統計，年鑑，白書，新聞，読み物，地図その他の資料を収集，選択し，それらを読み取り解釈すること，観察，見学及び調査・研究したことを発表したり報告書にまとめたりすることなどの学習を取り入れる（高等学校）。

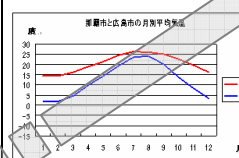
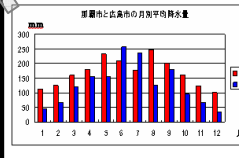
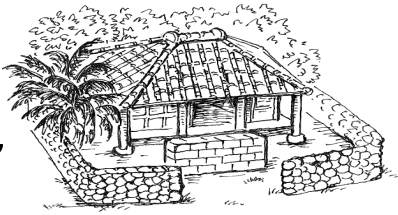
小学校 社会科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 気候の特徴と住まいの特徴に着目して、自然環境に適応しながら生活している人々の工夫を考え、グラフや写真などの資料と関連付けて説明することができる。

思考力、表現力の育成

- 学年 第5学年
- 単元名 自然とともに生きる人々
- 本時の目標 広島県の気候と沖縄県の気候を比較することにより、沖縄県の気候の特徴をとらえる。気候の特徴に合わせた沖縄県の住まいの工夫について考える。
- 学習の流れ（4時間目／全9時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 沖縄県の位置を把握し、学習課題を確認する。</p> <p>沖縄県の気候について調べ、そこに住む人々の気候に合わせたくらしのくふうを考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに学習した旭川市の気候と暮らしの工夫を確認するとともに、沖縄県の人々に暮らしに興味をもたせる。 	<p>・那覇市の気候の特徴を読み取っている。〔観察・資料活用技能〕(発言)</p>  <p>・気候のグラフと家の特徴を関連付けて、長く続く暑い時期や台風などの自然に適応した沖縄県の人々の工夫を考え説明している。〔社会的な思考・判断・表現〕(発言・ノート)</p> 
<p>2 グラフから那覇市の気候の特徴をとらえる。</p> <p>那覇市と広島市の月別平均気温のグラフ→那覇市は暑い時期が長い。 那覇市と広島市の月別平均降水量のグラフ→那覇市は降水量が多い。 (特に8月の降水量が多い。)</p> <p>地域別の台風の接近回数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・那覇市の気候のグラフと広島市の気候のグラフを比較させながら、那覇市の気候の特徴をつかませる。 	
<p>3 沖縄県の伝統的な家の写真から家の特徴をとらえ、気候の特徴との関係を話し合う。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーマットを活用し、沖縄県の家と気候の特徴について自分の考えを書かせる。 ・グラフから読み取ったことと写真から読み取ったことを関連させながら説明させる。 ・グラフや写真から読み取ったことを根拠に、話し合い活動をさせる。 	
<p>4 課題に対応した振り返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーマットを活用し、学習した内容を振り返らせる。 	

言語活動の充実

指導のポイント

個の考えを明確にするためにフォーマットを活用させる

- フォーマットを提示することで、短時間で必要なことだけを書かせることができます。また、この活動により、考えの根拠が明確になるので、後の説明し合う活動がより充実したものになります。
- 自分の家やその周辺の家と沖縄県の家を比較して考えさせるようにします。

【フォーマット】

沖縄県の家は、です。
それは、だからです。

沖縄県の家は、2階建てが少ないです。
それは、沖縄県には、よく台風が来るからです。

思考を深めるための発問を工夫する

- 児童の発言を取り上げ、沖縄県の家の特徴と気候の特徴との関係をより深く考えさせるための発問を行います。



なぜ、よく台風が来るところでは、2階建てが少ないのですか。

それは、よく台風が来るところは、風の被害を受けやすいので、家を低くして風を受けにくくしているからだと思います。

根拠や解釈を示して説明させるためにグラフや写真を活用させる

- 沖縄県の家と気候の特徴の関係を考える際に、グラフや写真を活用させることで、児童は自分の考えを根拠をもとに論理的に説明することができ、話し合いにおいて、考えを深めることができます。また、グラフや写真(視覚情報)を提示しながら話し合い活動をさせることで、着眼点がはっきりし、話し合いのポイントが明確になるため話し合いが活性化します。その際、事象と事象とを比較したり関連付けたりしやすいように板書を工夫することが、話し合いの支援として有効です。



比較、関連付けしやすい板書の工夫

(防風林を指差しながら) ここにあるように、沖縄県の家は、家の周りに木を植えています。それは、(台風の近づいた回数を示すグラフを指差しながら) このグラフにあるように、沖縄県は台風が多いので、木を植えて、台風の風を少しでも防ごうとしているのだと思います。

新学習指導要領では

考えたことを表現することを一層重視

- 今回の改訂では、能力に関する目標(各学年の目標(3))において、これまでの「調べたことを表現する」が「調べたことや考えたことを表現する」となり、「考えたことを表現する」ことが一層重視されています。
- 本事例では、学習活動3の話し合いで児童の発言に対して、なぜそのように考えたのかを問い返します。そうすることで、児童は事象と事象との関連をより深く考えるようになります。また、本事例のように板書(資料)を用いて考えたことを説明させることが大切です。それらを繰り返すことで、考えたことを根拠や解釈を示しながら、自分の言葉で説明できるようになります。

中学校 社会科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

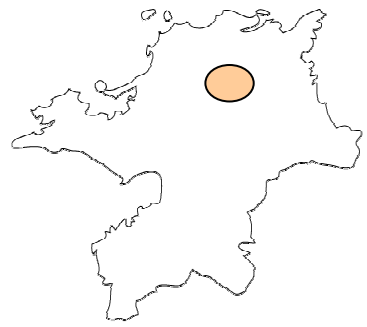
○ 地形や輸送手段等に着目して、工業団地ができた理由を多面的・多角的に考え、地形図や分布図を用いて根拠や解釈を示しながら説明することができる。

思考力、表現力の育成

- 学年 第2学年
- 単元名 九州地方の産業（地理的分野）
- 本時の目標 筑豊地方の工業生産物や生産高の変化を読み取ることを通して、筑豊地方でICなどの小型・軽量の製品の生産が盛んとなった（地方的特殊性）理由を、歴史的な背景、地形（自然的条件）や輸送機関（社会的条件）等との関係から考察し説明することができる。
- 学習の流れ（4時間目／全6時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 （評価方法）
1 本時の学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼた山の写真と石炭産出量のグラフをもとに、北九州工業地帯の学習で学んだ筑豊地方の多くの炭鉱が閉山されたことを確認し、現在の様子への関心を高める。 ・エネルギー革命の概要を説明する。 	
筑豊地方の工業生産の変化の様子をとらえ、その理由を考えよう。		
2 筑豊地方の工業生産の変化をとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> ・1960年頃と2005年頃の筑豊地方の土地利用図を比較させる。 →炭鉱だった場所が、工業団地やIC工場になっている。高速道路ができています。 ・ぼた山に隣接する工業団地の写真を示し、変化を実感させる。 	
3 筑豊地方に工業団地ができた理由を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習した工業地域の立地条件とその理由（地理的な見方や考え方）をカードで確認させる。 ・筑豊地方の工業団地の企業（業種）一覧を提示する。 →軽量・小型の製品を製造する企業が多い。 ・工業地域の発展についての既習の見方や考え方を活用させ、地図を活用して話し合わせる。 →内陸部で大型船舶を使うことはできないため、大きくて重たい製品を輸送することは難しい。 →周辺に高速道路が整備されていて、トラックでの輸送に適している。 ・話合いの内容を踏まえ、筑豊地方に工業団地ができた理由をワークシートにまとめさせ、説明させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筑豊地方に工業団地ができた理由を地形や輸送手段等と関連付け、地形図を活用して説明している。 〔社会的な思考・判断・表現〕 （ワークシートの記述）
4 本時のまとめを確認し自己評価カードに記入する。		
5 次時の予告を聞き課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・九州地方でIC工場が多く集まっている地域を地図帳で調べ、印をつけておくよう指示する。 	

言語活動の充実



指導のポイント

地理的事象を羅列的に提示するのではなく、「事象間の関連」を考察させる

■ 地理的事象を羅列的に示すのではなく、「そうした地理的事象がなぜそこでそのようにみられるのか」「なぜそのように分布したり移り変わったりするのか」等の問いにより考察させることによって、事象間の関連や地理的事象に関する法則性や概念が習得でき、地理的な見方や考え方の基礎を培うことができます。

覚えることが多いなあ…

工夫

なぜ、筑豊地方にこのような工業団地が見られるのだろうか？

- ・筑豊地方には炭鉱がありました。
- ・今は高速道路が整備されています。
- ・工業団地で生産されているものは、アルミサッシ、即席ラーメン、それから…

〔学んだ見方や考え方を生かす〕

これまでに学習した地理的な見方や考え方を生かして、事例地域を考察させることにより、生徒の地理的な見方や考え方を深めることができます。これまでの学習を振り返り、「工業地帯はどんどこに発達していたか。また、それはなぜか。」ということを確認し、本時の学習に生かすことが大切です。

そのためには、単元のとめ等の時間において、生徒に学習した見方や考え方を、その理由とともにノートにまとめさせ、指導者はカード等に整理していくと活用しやすくなります。

確か…
「工業地帯は、海の近く」、「工業製品は船を使って運ぶ」って習ったよ。

内陸部には精密機械が発達していたわ。

地図を見ると、近くに高速道路や幹線道路が整備されているよ。

この工業団地の製品は、小さくて軽いものだし、輸送先は国内だから、輸送にはトラックが便利よ。

工業地域周辺には、その工業に適した輸送機関が整備されているんだ！

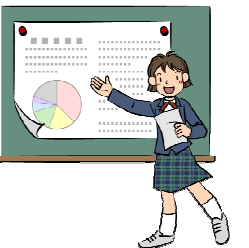
地図を活用させる

■ 地理的事象を位置や空間的な広がりのかかわりでとらえ、それを地域の環境条件や他地域との結び付きなどと関連付けて考察させるには、地図の活用が欠かせません。また、考察した結果を分布図や地図を用いて説明し合う活動を取り入れることで、生徒は根拠や解釈を示しながら自分の言葉で説明できるようになります。

新学習指導要領では

言語活動にかかわる学習を一層充実

- 今回の改訂では、社会的な見方や考え方を養うことをより一層重視する観点に立って、言語活動にかかわる学習の一層の充実が示されました。地理的分野では、「地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするなどの学習活動を充実させる」ことが示されています。
- 本事例では、筑豊地方に工業団地が立地した理由を、主として製品と輸送機関との関連について、これまでに学習した地理的な見方や考え方を活用し、地図を用いて考察させる学習活動を位置付けています。これにより、生徒の地理的な見方や考え方の補充・深化・統合が図られ、より多面的・多角的な考察ができるようになります。



高等学校 地理歴史科の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 田沼意次の政治の複数の歴史的解釈が、どのような論理で成り立っているのか、資料をもとに筋道立てて説明することができる。

思考力、表現力の育成

- 科目 日本史B
- 学年 第2学年
- 単元名 幕政の改革～田沼時代
- 本時の目標
 - 田沼意次という人物について、どのような歴史的事象にかかわる解釈に基づいて評価されているかに気付くことができる。
 - 田沼意次の評価の理由を具体的な根拠をあげて、論理的に説明することができる。
- 学習の流れ（4時間目／全6時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 既習事項を振り返る。</p> <p>○ 田沼意次はどんな人ですか？</p> <p>2 本時の目標を確認する。</p> <p>○ 川柳「役人の子はにぎにぎをよくおぼえ」は何を表現しているのかを文章で表現する。</p> <p>○ 株仲間・専売制の奨励は田沼時代だけの政策ですか？</p> <p>○ 吉宗からの継続した政策にも関わらず、なぜ田沼意次の時代だけこのような評価が行われるのでしょうか？</p> <p>3 歴史解釈の違いを考察する。</p> <p>○ 大正時代や昭和20年代の教科書にどのように書かれていたのか、気付きをあげてみましょう。</p> <p>○ 大正・昭和の教科書と比べて、今の教科書の違いは何か、気付きをあげてみましょう。</p> <p>○ 辻善之助東京大学史料編纂所初代所長が著した『田沼時代』を紹介する。</p> <p>4 本時のまとめ</p> <p>○ 田沼意次という人物の評価にはどのような評価があり、なぜ大きく分かれるのか、根拠とともに説明しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校・中学校の歴史の授業を想起させる。 賄賂政治のイメージや貿易に力を入れた人など ・ 「にぎにぎ」に注目させ、役人は誰から、なぜ賄賂をおくられたのかを理解できるようにする。 商業政策として株仲間の公認、専売制度の拡張のために特定商人に座を組織させたため、幕府役人の間に賄賂・縁故の人事が横行 ・ 享保の改革を行った徳川吉宗の政策を継承していることに気付かせる。 ・ 理由をワークシートに各自文章で予想させる。 ・ このような悪評が田沼時代の次の寛政の改革の時期に定着したのは、改革政治を、前の時代を批判することで展開したことに気付かせる。 ・ 江戸時代の中で「田沼時代」という政治家の名前がついている時代は他にないことと関連付けて説明する。 ・ 大正・昭和20年代の教科書は田沼を金権政治家としての記述であるのに対して、今の教科書は「意次の政策は、商人の力を利用しながら、幕府財政を思い切って改善しようとするものであり、これに刺激を受けて、民間の学問・文化・芸術が多様な発展をとげた。」と、異なることに気付かせる。 ・ 田沼は初めての定量の計数銀貨の铸造、長崎貿易の政策を転換し金銀の輸入を進める等の政策を行ったことを説明し、田沼政治を発想の転換をした積極的な政策と評価した歴史学者の見方を説明する。 ・ 二極化する人物評価を対比させ、その根拠とともに表現できるように、表現方法の確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大正・昭和・現在の教科書記述の具体的な違いが指摘でき、現在の教科書記述が歴史学者の見方を反映していることが説明できる。 〔資料活用の技能〕 〔思考・判断・表現〕 (ワークシートの記述)

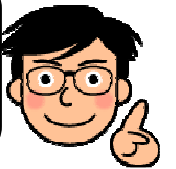
言語活動の充実

指導のポイント

教科書の記述を比較する学習過程を組み込み、歴史的事象と解釈を区別させる

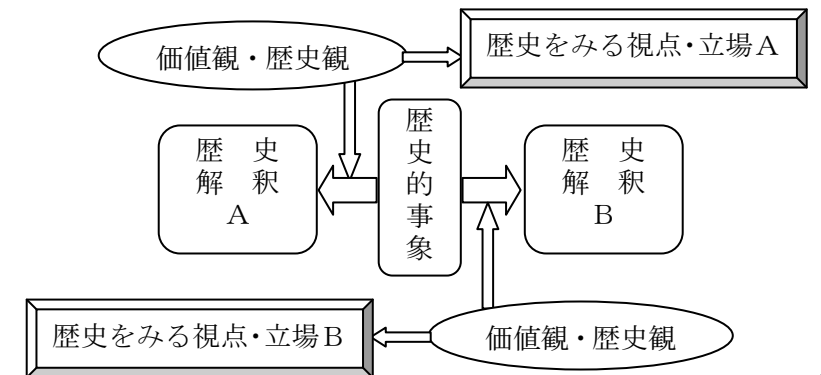
- 歴史は過去のこと、歴史は変わらないと思っいる生徒が多いですが、同じ歴史的な事象でも、歴史学者の立場や考え方によって解釈が異なることを理解させ、教科書記述を歴史的な事象と解釈に区別する方法を身に付けさせるようにします。

教科書の記述を比較して、歴史的な事象（歴史事実）と解釈を区別してみよう。



歴史学者が、歴史的な事象をどのような立場や考え方によって解釈し評価しているかについて考察させ、ある人物やある政策の評価が分かれたり一定の期間を経て転換したりするのはなぜかについて自分の考えを説明させる

- 田沼意次という一人の人物に限って考えても、歴史的な解釈が大きく二分されます。その評価の根拠となる立場や考え方（価値観、歴史観）のみならず、その時代背景が影響して歴史的な事象の持つ意味が変化することを理解することで、「現代社会をどのように見るか」の視点にもなります。同じ社会的な事象を見ても、その事象の持つ意味が異なれば見えてくるものが違うことを、日本史の授業で具体的に展開し、生徒自身が理解できたことを文章で説明できるように指導を行います。



新学習指導要領では

諸資料を活用して歴史を考察し表現する学習を重視（日本史B）

- 今回の改訂の要点である歴史を考察し表現する活動の重視は、内容「(1) 原始・古代の日本と東アジア ア 歴史と資料」, 「(2) 中世の日本と東アジア ア 歴史の解釈」, 「(3) 近世の日本と世界 ア 歴史の説明」, 「(6) 現代日本の政治と国際社会 ウ 歴史の叙述」の一連の学習を、通史的な学習内容とかわらせて計画的に実施することで、歴史学習にかかわる技能を段階的に高めることを意図しています。
- 「(3) 近世の日本と世界 ア 歴史の説明」では、歴史的な事象については立場や見方の違いによって複数の歴史的な解釈が成り立つことに気付かせ、それぞれの解釈を成り立たせる根拠や論理を踏まえ、筋道立てて考えを説明する力を身に付けさせることとしています。
- 今回の改訂で地理歴史科では、思考力・判断力・表現力等を育成する観点から、各科目において、様々な資料を活用した学習を一層重視して内容の構成が図られています。

設定した言語活動を通して育てたい力

- ある出来事の背景や因果関係を明らかにし、自分の考えをまとめ、 論述することができる。

思考力、表現力の育成

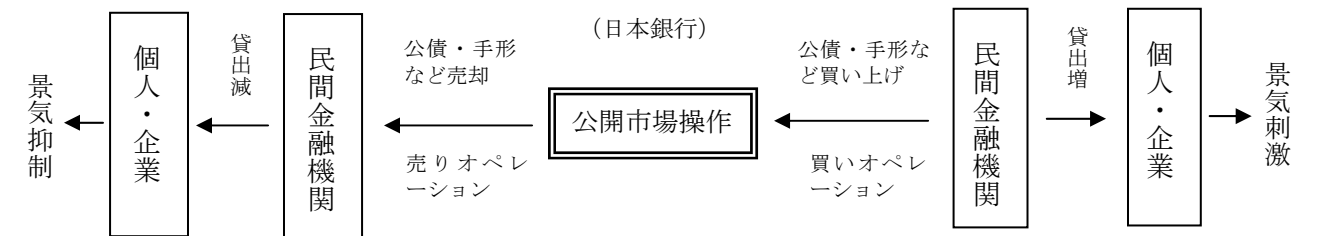
- 科目 現代社会
- 学年 第1学年
- 単元名 現代の経済社会と経済活動の在り方
- 本時の目標 日本銀行の役割を理解する。
- 学習の流れ（1時間目／全7時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 〔評価方法〕
1 日本銀行のしくみと役割を説明する。 発問：日本銀行はどのような仕事をしているのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットなどの視聴覚教材を用いる。また、理解を深めるために、自分たちの生活に身近な話題を取り上げるようにする。 	日本銀行の業務と自分の生活とのかかわりに興味・関心を持ち、主体的に考えようとしている。 〔関心・意欲・態度〕（発表）
2 景気変動と通貨量の関係について説明する。 ○ 好況期と不況期における生産量、物価、雇用形態と通貨量 の関係を説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに学んだ貨幣の役割、信用創造、景気変動の構造を思い出させながら説明する。 	
3 景気の4局面のうち、好況期、不況期において実施する金融政策（公開市場操作、公定歩合操作、預金準備率操作）のモデル図をワークシートに作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・5人ずつのグループを編成する。 ・ワークシートに実施前と実施後の社会状況（通貨量、雇用、物価等）を記入する欄を設ける。 ・矢印の方向だけでなく、長さや太さにも根拠をもつよう指導する。 	金融政策を多面的に考察し、モデル図を作成することができる。 〔思考・判断・表現〕（ワークシート）
4 発表 ○ グループで話し合った内容を代表者が発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を示すとともに、話し合いの過程も説明するよう指導する。 	
5 振り返り ○ 他グループの発表内容や質問内容を基に、自分の発表内容を再度考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・個人学習に戻す。 ・自分の考えと他人の考え及び発表後の自分の考えを比較検討させる。 	
6 まとめ ○ 日本銀行は貨幣価値を維持し物価を安定させるために金融政策を行い、社会を安定化させていることを説明する。		
7 レポート作成 ○ 本時の学習で学んだことや疑問に思ったこと、次時までの課題をレポートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭に結論を書き、その後に理由を書くよう指導する。 ・事実と個人の感想や意見を分けて書くよう指導する。 	自らの知識・技能を活用し、適切な構成展開のレポートを作成することができる。〔思考・判断・表現〕（レポート）

指導のポイント

モデル図を作成させる

- モデル図を作成するには、「何を書くのか、書かないのか」、「どのように書くのか」を総合的に判断しなくてはならず、持っている知識や概念を総動員する必要があります。また、イラストや表を挿入する場合は、全体の構成やレイアウトを考慮しなくてはなりません。
生徒は、習得した知識を大いに活用して表現する力を伸ばすことになります。



分かりやすいモデル図作成のための工夫を行う

- 作成したモデル図を他人が見たとき、分かりやすいものでなければなりません。そのためには、まず、使用する用語が分かりやすいものでなければなりません。金融をはじめとする多くの経済用語は難解なものが多いため、分かりやすくするためには、**日常生活で使用することばに言い変えたり、具体例を示す必要があります。**
さらに、**背景やスペースなど、デザインを工夫することにより、特に強調したい部分を明確にすることも必要です。**

新学習指導要領では

社会の在り方を考察する基盤として「幸福、正義、公正など」を位置付け

- 現代社会では、大項目（1）で、**この社会の在り方を考察する基盤として「幸福、正義、公正」などを理解させ**、これを基に、大項目（2）において、現代社会について倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解させるとともに、自己とのかかわりに着目させて、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察させます。さらに最後の大項目（3）では、この科目のまとめとしてこれまでの学習成果を活用して課題を探究させ、人間としての在り方・生き方について考察を深めさせることになっています。
- 「言語活動」が全教科で必要になったことから、知識が拡散する一問一答的な学習ではなく、拡散した知識をあるモデル図や視点に集約させるような工夫が必要です。